（郵便信書認可）　（本號六面）　明治二十一年八月十五日　（定價二錢）

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千十七號
明治廿一年八月十五日　水曜日
壽戊子七月八日（戊、午）
月出午前五時零一分
日入午後六時四十三分
月出午後零時四十三分
日入午後十一時二十七分
滿潮午前十時二十一分
滿潮午後十時五十八分
（西暦一千八百八十八年）

時事新報配達方に付廣告

本社は兼て新報遞送配達の儀に就ても深く注意し便宜迅速を旨とし隨時改良に怠り無きも廢質の紙數寡かるべき配達の區域廣くして不行屆の事も多かる可く殊に遠隔の地方に至りては迅速の方法は有り乍ら之を利用するもとに心付かざるもあるべし既ては新報の遞送配達方に付一層の便法御心付あらば其方法詳細御報知相願度之を實施したる上果して實効を見るに至らば相當の御禮可仕候

時事新報定價

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊せず其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
〇一箇年前金六圓
〇時事新報社より郵便にて遞送する者は二枚より若干錢の外に一箇月二十六錢の遞送料を申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字にて一行廿四字詰	一行一日限	一行二付二日以上六日迄	一行二付七日以上十五日迄	一行二付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢	五錢
廿一行以上	八錢	六錢五厘	五錢五厘	五錢五厘

時事新報

プーランツェー論（前號の續）

在倫敦　霞岳生寄

次にプーランツェーの黨友に就て一言せんに平常將軍の爲め最も盡力する其人の一人をラゲールと云ふ其齢凡そ三十前後にして去る千八百八十五年ワンソールヅ州より撰ばれて國會議員と爲り極左黨の一人なれども其議論は更に一歩を進めて社會主義とも稱す可く職工等の每々ストライキを起して拘留せられ之る場合には氏は常に其辯護に從事し壯年ながら才幹の名あり加ふるに雄辯なるより反對黨の人と雖も恐るゝはどの人物なりと云へり義に將軍の爲めに憲法改正の動議を提出して前内閣を倒したるも實は氏の力與りて効ある者なりラゲール氏の次ぎに將軍の賴とするはチボー氏にして氏は從來各種の新聞編輯に從事したり其跡に就て考ふるに持論の共和主義ならざるは明白なれど且つ議院政治に反對するが爲めに今日迄使用したる金錢も少からず而して其金の出所はボナパルト黨に在て中にもウェーム親王より出ずるもの多ろる可しと思はるゝ氏と親王との交際極めて親密なるを以て推測を可し又プーランツェー將軍は實直慷慨なるよりあらずして其家族の爲には一億年少くも二千弗を費すのみならず將軍自身は平生質樸なる旅館に投宿し近頃は又巴里市外なるニュイェーに別邸を構へ之に引移らんとの計畫もあり且平常は二頭引の馬車に乘り、時々政友を會して實を張る其費額も頗る盛なるものにして此頃ノール州の撰擧と賢ふが爲に費しする金のみにても其額の莫大なるは貴人の知る所なり又將軍の下に立て事を執る者は貴者生かれども然らざるも無資力の政談家なるに將軍が尚ほ能く之を支へて政治界に奔走するは何れにも其金の出所なかるべからず噂其金穴の帝政黨中に在るか或は過激黨の將軍を助くる者か此一事分明ならざれば我輩は書く疑を存して後日に質す所あらんとするなり

將軍がノール州の撰擧に於て十八萬の大多數を制したる中の十萬以上は王政黨并びにボナパルト黨の投票なりしと明なり尚ほ他の諸州に在りても其投票者は大抵皆右の二黨なりとすれば將軍の人望も凡そ此邊に在るを推知す可し而して温和派共和主義の政治家は一般將軍に反對なれ共殊に巴里其他の市府に在る書生黨は將軍に敵意を挾む最も甚し尚此外に將軍に反對するは巴里其他各市府の職工にして「將軍の監督政治を妨害するの必要あらば我々は不時に六萬の人夫を繰り出して抵抗せるを容易なり」と聲言しなるほどなり斯る有樣なるが故に將軍の政敵は將軍が巴里の人民に對して一般に其歡心を得ざるの事實を察し得たるのみならず現に巴里撰出の國會議員アナトール ドラフォルヂー氏の如きは人心の向背を卜せんが爲め自ら其職を辭し將軍を相手取りて撰擧と爭はんと申込みたりしと將軍は辭して之を受けざりしと

今の國會を解散して新に議員を撰ばたらば或いプーランツェー黨が多數を制するとも決して一國會にて將軍の股肱と賴む可き議員は極めて少なく上院中には僅に一名、下院にても二十名を越えざる可しと云ふ去る六月將軍が初めて議院に出席して憲法改正の必要議と提出したるとき百八十六に對する三百七十七の多數を以て破毀せられたりしが其百八十六の投票さへも實は將軍の率ゐたる股肱黨の入札ならずして帝政王政二黨の外にロシフォール氏の過激黨并に社會黨等ふの〳〵將軍の名を利用して以て自黨の目的を仕遂げんとせたる偶然の結果に外ならず左れども將軍い政治家に欲く可らざる一種の技倆ある人物にして今日迄我政略は斯くれ如しと一定の主義綱領を公にすることなく何時も漠然として捕所なく說を吐くに妙を得たる者の如し其一例を示さんに嘗て憲法改正の必要を論じたる演說に

若し予をして撰む所に從はしめなば寧ろ大統領を欲すと雖も佛國政治界の先例として主領者なければ國の政治成立つ可しとも思はれず多年の後或は大統領なくして國を治むるとを得可しと雖も今日に在りては寧ろ其職を設け置くと必要ならんと云ふが如き語氣曖昧にして捕ふるに由なきい却て我輩の感服せる所あり將軍は又曰く

予自身い上院の廢擧を欲すれども若し之を全廢して國を治むる者とすれば或は思はざる危險なきにあらず寧ろ上院は廢せざる方然る可し唯其仕組と普通撰擧にするを要す

と云ふが如きも一應い其所之宜しけれども左りとは二個の下院と作るの理なり或は予は平和を愛し秩序を尊ひと云ひ若くは國家の安全を祈ると稱し將た實行す可き法案を贊成すると約し或は規律ある政府を設く可し

として既くが如き秩序、平和、國家の安全、規律ある政府は帝政、王政、共和、社會の諸黨に論なく孰れも皆希望の點なるが故に將軍は漠然之を唱へて世人を嘯着す、其術如才なしと云ふ可し

（未完）

官報

○大藏省告示第百四號

東京第一國立銀行ノ儀明治二十一年九月一日ヲ以テ朝鮮仁川港ニ支店ヲ設置ス

明治廿一年八月十四日　大藏大臣伯爵松方正義

○志願兵家族扶助金支給方伺　去月二十七日附を以て神奈川縣より海軍省へ今般省令第十號を以て海軍下士卒家族扶助金給與規則御改正相成候處其第一條に志願に依り出身しする下士卒現役中は扶助金として其家族へ一箇年に金十圓を給與すと之ゐり右單に志願に依り出身とするは徴兵令第十條及徴兵事務條例第九十五條に據り志願しする現役兵も包含する儀と心得然るべく若やと伺出でたるに去る二日海軍省より徴兵令及徴兵事務條例に據り志願しする現役兵は包含せざる儀と心得べしと指令ありたり（海軍省）

○磐梯山出張員報告　帝國大學より磐梯山破裂實況視察のため出張せしめたる理科大學教授關谷清景理科大學助教授菊池安より左の報告ありたり（文部省）

小官等去ル七月三十一日ヨリ今八日マテ磐梯山上ニ宿泊シ破裂ニ關スル諸件ノ研究ニ從事セシ處取調濟ニ付本日下山ス小官等滯在中ハ山中至テ靜穩ナリキ但時々破裂口ノ境壁數百尺ノ高處ヨリ崩壞シ土石ヲ落シ恰モ數多ノ巨砲ヲ連發スルカ如キ鳴動ヲ生ス是レ境壁ノ斷崖絶壁ヲ爲スヲ以テ自然ニ墮落スルノミ蒸汽暴發ノ作用ニハアラサルナリ已ニ去ル三日午後七時三十七分ニ大崩壞アリ轟然四隣ニ震ヒ其響甚盛ナリ諸新聞ニ磐梯山新ニ鳴動シ人民恐怖ス云々トアルハ蓋シ是等ノ鳴響ヲ云フナラン乎

○船舶檢査　露領浦潮港より於て檢疫規則を設け日本及支那より來航する總ての船舶を檢査するとを公布されたる旨本月十一日午後七時十五分發電報在同港寺見貿易事務官より到達せり（外務省）

○露領東印度總督更迭　去る六月二十日和蘭國皇帝は露領東印度總督オットウ ウンレース（Otto Van Rees）氏の辭職を聞届け同時にヒナッケル ホルダイク（Tynacher Hordyk）氏として其職を繼がしめたる旨同月二十六日附を以て在和蘭國公使館より通報ありたり（外務省）

雜報

○決鬪　佛國下院七月十六日の討議に於て議員ビレロップ フレッペル は決鬪禁止案を呈出し者としてフロッケエー氏と武將軍の決鬪を例證とし其弊害を論ずて速に禁止の命を設けんとしなるに其議は議場に於て成立たざりし由就て思ひ起せし事あり獨逸にては法律上眞劍を持て決鬪するを禁じ學生社會に行はるゝ決鬪い眞劍なるが故に法に背きしものなるとと既に高等法院に於て斷定せる所あり然るに其法律はあれども如なきが如く實際何の功とも爲さゞるこそ詮方なけれと申す

は學生が常に決鬪することあるも巡査は左のを注意と密に為て之を止めんともせず只だ時々之が爲め出來事の起りし時分からの事に思ひて探偵を密にすれども學生の方には又其發覺を防ぐこと甚だ易し元來學生の決鬪は大學のある市中より數英里離れし田舍の離れ家にて擧行するが通常なるに地方は總べて巡査の數市中の如く多數ならざれば其間隙を窺ふとも自由なるが上、學生は嫌てより百姓を慮け置て遠か遠方の道筋にろれとなく見張り番を爲さしめ若し巡査の影の見ゆる時は早速報知せしひるの用意あり故に僅今へ巡査の來ることあるも未だ近傍に達せざる前に百姓の通知と得て暫らく勝負を中止し武器と負傷者とを隱すが故に只ざ通常の遊戯會の如く見えて別段奇むべき處なし而して巡査の立去るを待つて再び武器を取出し勝負を爲すとと前に異なるのとなら未だ嘗て決鬪の顯着なして其弊害を釀す程には至らざるなり

養成するとは於ても前年より學生の決鬪に於て學生の誰か一たび相成候時は大學にあり存して身體何なれば禁止案にして何時と云ひ其弊を見ざるを見れば

○外人の北海道遊浴　去る十日横濱を出發して大抵箱根に赴くもの多し

○鎌倉の海濱遊浴の地に多く赴くもの多し

○外人の來客　高砂丸にて横濱へ來客に接せしと

評判を得、日

暦の浴客を增

の好き室い客

大抵は前以て

白耳義國公使

氏、華族阿部

○石川縣河北郡會議員撰擧　去る十日石川縣河北郡會議員撰擧の連署と以て

手續に相違あ

連署を以て

○樂隊寄宿舍　去る十日樂隊生徒は從來樂隊生徒

し居りしも右

部の傍に一の

せしが來月廢

といふ

○婦遊人宴會　東京横濱の獨逸人宴會

なる宴會を張

資は當日一時

前に無數の紅

の樂隊の音樂

を聞きて溯源

其全く散會せ

○寒天製造制　寒天は近來

にして早く之